

化が進められている。越境投資の拡大は加速化していくに違いない。人口の増加、所得の上昇、中間層の拡大、AEC（ASEAN経済共同体）の深化、投資の自由化が後押しする。

限られた事例からみると、ASEAN諸国の企業の域内投資を牽引しているのは所得向上による拡大する中間層を主とした非製造業分野のようである。一方、ASEAN域内貿易が占める割合は世界貿易額のわずか1.73%、消費財に限ると1.24%に留まり、域外貿易が主体である。また、ASEAN域内貿易額のなかで消費財が占める割合は17.57%であるのに対し、中間財の域内貿易は64.12%と高い（2016年）。

表 12 2016年のASEAN域内貿易額と世界貿易に占める割合（%）

	貿易総額				対ASEAN 域内比率 (%)
	世界 (100万ドル)	比率 (%)	ASEAN域内 (100万ドル)	比率 (%)	
総額（輸出）	15,619,481		269,902		1.73
消費財	3,816,314	24.4	47,411	17.6	1.24
中間財	7,382,351	47.3	173,068	64.1	2.34

注：比率（%）は、総額に占める割合（%）

対ASEAN域内比率（%）は、ASEAN域内貿易が世界貿易に占める割合

このため、今後のASEAN地域の発展のためには、ASEAN諸国の貿易は域外貿易が主体の貿易構造から域内貿易を重視する貿易に徐々にシフトしていくことになる。今後の日本企業にとって大切なのは、受注した製品を効率的に製造し顧客に届ける「サプライチェーン」の視点だけでは対応できない。消費者や市場のニーズをいち早く取り入れ新たな製品開発に反映させる「ダイヤモンド・チェーン」をいかに構築してゆくのかにある。

参考文献

- 1 国際貿易投資研究所：「世界主要国の直接投資統計集」（国別編）
ASEAN各国の直接投資統計の公表状況および公表数値を掲載している
- 2 JETRO：「世界貿易投資報告」

注

- 1 【越境EC】ASEAN地域の越境ECについては、本誌110号「事例からみた近年の中国企業の対ASEAN投資」を参照
- 2 【事例】新聞報道、ニュースリリース等を参考に記述している。